

## 肥育豚への飼料用玄米および甘藷残さ給与技術

甘藷生産地やその加工地の地域資源である甘藷残さのさらなる活用を図るため、養豚生産者の一般的な飼養管理下で肥育豚へ飼料用玄米と甘藷加工残さを併給する実証実験をおこないました。その結果、トウモロコシ主体飼料と遜色のない飼養成績で、トウモロコシ主体飼料給与の豚とは背脂肪の脂肪酸組成が異なる特色のある豚肉を生産できることを明らかにしました。

### ☆ 技術の概要

1. 肥育後期豚（LWD 交雑種、65kg から 120kg）にトウモロコシ主体飼料と飼料用玄米および甘藷加工残さ（表）を主体とした飼料を給与したところ、玄米および甘藷加工残渣を給与した豚はトウモロコシ主体飼料を給与した豚と日増体重は遜色なく、歩留まりおよびロース芯面積に給与飼料の影響がなかったことから、甘藷加工残さサイレージと飼料用玄米の組合せはトウモロコシの代替の飼料原料として使用できます。
2. 玄米・甘藷飼料の給与により生産された豚肉の背脂肪の脂肪酸組成は、トウモロコシ主体飼料で生産されたものに比べてオレイン酸の割合が高く、リノール酸の割合が低い特色を持ちます（図）。

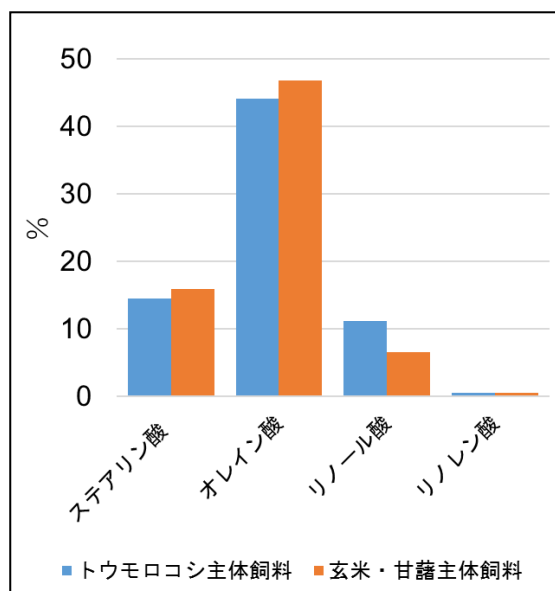
表 飼料の配合設計

対照飼料		玄米・甘藷飼料			
w/w,	%	原物	w/w,	%	乾物
配合飼料 <sup>1</sup>	22.7	飼料用玄米	11.8	50.0	
水	77.3	甘藷加工残さ <sup>2</sup>	16.7	25.0	
		大豆かす	5.0	22.0	
		ビタミン・ミネラルミックス	0.6	3.0	
		水	66.0	-	

<sup>1</sup>トウモロコシ74%、油かす類24%、そうこう類1%、その他1%。

<sup>2</sup> 芋加工残さをサイレージにしたものを使用。

図(右)．トウモロコシ主体飼料給与の豚と飼料用玄米および甘藷加工残さ主体の飼料給与の豚の背脂肪の脂肪酸組成の比較。



### ☆ 活用面での留意点

1. 飼料用玄米は、粒度によって消化性に影響するため、配合時には注意してください。
2. まとめられた詳しい内容は以下の URL を参照してください。  
[http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nilgs/2015/15\\_029.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nilgs/2015/15_029.html)
3. 農研機構畜産研究部門・交流チーム（電話 029-838-8249、問い合わせフォーム <https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/index.html>）にお問合せください。

（農研機構畜産研究部門 家畜代謝栄養研究領域 石田 藍子）